

第4節 横断的な視点

1. SDGs

SDGs(持続可能な開発目標)とは、平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された令和12(2030)年までに達成すべき国際目標です。地球上の「誰一人取り残さない」ことを理念に17のゴール(目標)で構成されており、世界の国々で取組が進められています。

我が国は平成28(2016)年12月に「SDGs実施指針」を策定し、国、地方自治体、企業、町民による幅広い連携とともに、地方自治体の各種計画への最大限の反映を奨励しています。

SDGs(持続可能な開発目標)17のゴール(出典:外務省)

 <p>1. 貧困をなくそう</p> <p>あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。</p>	 <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>各国内及び各国間の不平等などを是正する。</p>
 <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。</p>	 <p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>包摂的で安全かつ強靱で持続可能な人間居住を実現する。</p>
 <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。</p>	 <p>12. つくる責任 つかう責任</p> <p>持続可能な生産消費形態を確保する。</p>
 <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。</p>	 <p>13. 気候変動に具体的な対策を</p> <p>気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。</p>
 <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>ジェンダー平等などを達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。</p>	 <p>14. 海の豊かさを守ろう</p> <p>持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。</p>
 <p>6. 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。</p>	 <p>15. 陸の豊かさを守ろう</p> <p>陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。</p>
 <p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。</p>	 <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。</p>
 <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。</p>	 <p>17. パートナーシップで目標を達成しよう</p> <p>持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。</p>
 <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。</p>	 <p>カラーホイール</p> <p>17のゴールそれぞれのカラーを一つの輪として表現した、SDGsを象徴するアイコン</p>

2. Society5.0

Society5.0 (ソサエティ 5.0) とは、情報社会 (Society 4.0) に続く、少し先の未来の社会を指します。内閣府では「サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会 (Society)」と定義しています。

本町においては、Society5.0の実現を目指すことによって、地域の魅力を最大限にいかし、自立した豊かな地方の姿を実現していくことが重要となります。

このような社会を実現するため、事業者の生産性の向上やビジネスモデル・組織の変革、地域コミュニティの維持、行政サービスのDX*化の推進など、地域課題・社会課題の解決に向けて情報通信技術などの新たな技術の活用に積極的に取り組むこととし、本計画においても、分野横断的に、基本計画に掲げる各施策に位置づけていくものとします。

Society5.0の変遷

Society5.0以前の人間社会の進化は、4段階に分けることができます。

動物を狩っていた「狩猟社会」が「1.0」、田畑を耕すことで安定した食料の確保を実現した「農耕社会」が「2.0」、産業革命により工業が発展した「工業社会」が「3.0」、コンピューターやインターネットが普及した「情報社会」の現代は「4.0」にあたります。

それらがさらに進化した新しい社会が「Society5.0」です。つまり、情報社会から一歩進んだITがもっと生活に溶け込んだ便利な社会と捉えることができます。



* DX : Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション) の略称。進化した情報技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念のこと。例えば行政サービスのDX化が進んだ場合、町民は行政窓口に行かなくても申請手続などを行えることが考えられる。

第4節 まちづくりの背景

3. 「スマートシティ」を目指して

Society5.0の実現は、SDGsの達成や、スマートシティの実現にもつながります。

スマートシティは、「情報通信技術を活用して生活の質の向上や新たな価値創出による経済循環の促進、社会課題の解決を図る社会」のことをいい、Society5.0の先行的な実現の場と定義されています。

現在、高齢化の急速な進展、東京一極集中と地方の衰退、多発する大規模災害、新たな感染症リスクなど様々な社会課題に直面しており、これらと向き合っていくためには、交通、商業、ビジネス、医療、エネルギー、行政などあらゆる都市機能自体をデジタル化に対応した形に大きく転換していくこと（DX化）が求められています。

スマートシティのイメージ



資料：国土交通省 スマートシティ官民連携プラットフォーム